



荒木 望星さん

新島短期大学2年。榊澤さんと同じく「高チャリマップ」の作成に携わる。渋川市在住

榊澤 恵理佳さん

高崎健康福祉大学2年。まちなかを歩いて回り、「高チャリマップ」の作成に携わる。深谷市在住

木部 有紗さん

高崎健康福祉大学2年。高チャリを使ったスタンプラリーの企画・運営に携わる。深谷市在住

富岡 賢治市長

「高チャリ」を利用して、まちなかをもっと楽しんでもらいたいと考えている

高チャリ

まちなかがもっと身近に



う意味。「ドロップ」は、高チャリの水玉柄にちなんでいます。

市長 なるほど、いい名前ですね。

木部 高チャリでのまちなか巡りを楽しんでおくと、6月にはサイクルポート(自転車貸出拠点)を巡るスタンプラリーを行いました。12か所のサイクルポートのうち、3か所を巡った人に景品をプレゼントしたんですよ。

市長 それは面白いですね。スタンプラリーとサイクルポートを結び付ける発想はなかなか出ませんよ。

木部 ありがとうございます。子どもから大人までたくさんの方が参加してくれました。これからもこうした企画を考えたいです。

世代に合わせた楽しみ方を

市長 高チャリをもっと多くの人に利用してもらうためには、どのような工夫が必要だと思いますか？

榊澤 私は高チャリの置いてある場所がもっと増えればいいと思いますが、東口にもあればいいと思いますし、大学の近くにあればうれしいですね(笑)。

木部 スタンプラリーのときに利用者アンケートを取ったんです。多かったのは「使いたいときに、1台もなくて使えない」という回答でした。

市長 そうですか。実は今、商工会議所と相談して高チャリの台数を増や

無料で気軽に使える自転車

市長 皆さんは市外のご出身だそうですね。普段はどういう所で食事をしたり遊んだりしているんですか？

榊澤 私と木部さんは、同じ大学ですが、周りにお店が少ないのでお昼は学食が多いです。

市長 まちなかに買い物に来たりはしないんですか？

木部 駅の中や近くのデパートで買い物したりはします。でも、あまりまちなかには行きませんね。

荒木 僕もです。食事は短大近くのお店で済ませています。まちなかのお店はよく分らないんです。

市長 なるほど。今回、高崎商工会議所さんに中心となってもらって高チャリをスタートさせましたが、これを始めた理由の一つに、皆さんのような若者からお年寄りまで、もっと多くの人にまちなかの魅力を知ってもらいたいというのがあります。皆さんはもう高チャリには乗りましたか？

榊澤 はい。無料で使えるのはうれしいですね。駅から歩くにはちょっと



今回のほっとTタイムは、今年4月に始まった「高崎まちなかコミュニティサイクル(高チャリ)」がテーマです。高チャリのPR活動などにボランティアで参加する大学生3人を迎え、活動をおして気付いたことや感じたことを語っていただきます。

と遠い場所でも、高チャリがあれば行けるので便利です。友達と買い物に行くときに使っています。今まで知らなかった店が見つかることもありますね。

市長 高チャリの大きな特徴として、「面倒な手続きなしに気軽に使えること」「無料で使えること」があります。いろいろと難しいこともありましたが、商工会議所の皆さんに知恵を絞ってもらって実現したんですよ。

榊澤 そうなんです。私はあのデザインがかわいいと思います。「あ、高チャリだ」とすぐに分かります。

学生ボランティアのPR作戦

市長 皆さんは、高チャリのボランティアとして、どんな活動をしていくのですか？

荒木 高チャリをもっと多くの人に乘ってもらおうと、PR活動や運営の補助をしています。市内の大学や短大から30人が参加しています。

榊澤 グループの名前は「フレまち隊ドロップ」にしました。「フレ」は「フレンド」や「ふれあい」とい

高チャリマップ



学生ボランティアが、まちなかを歩いて制作した「高チャリマップ」の試作品。完成後は、高チャリの利用者に公開する。今後はオープンカフェの情報を掲載するなど、まちなかの楽しみ方をまとめていく予定。

していきたくて思っているんです。

荒木 それはいいですね。高チャリが増えれば、まちがもっと盛り上がるような気がします。

榊澤 利用する方に楽しく乗ってもらえるような工夫も必要だと思います。ドロップでは、「高チャリマップ」も作ったんですよ。

市長 これは面白い地図ですね。

榊澤 ドロップのメンバーは市外出身が多くて、まちなかのことをほとんど知りませんでした。だから自分たちで実際にまちを歩いて作りしました。

荒木 高崎を知らない人でも分かりやすいように、目印となる建物の写真を貼ったり、イラストを描いたり、皆でわいわいやりながら手作りました。

市長 楽しそうだね。せっかく若い人たちが作っているんだから、若者向けの店やレストランを書き加えても面白いね。

木部 そうですね。お気に入りのコースを考えたり、オープンカフェの情報も一緒に載せられたらと考えているんです。

市長 それはいいアイデアですね。市内に住んでいる人も、案外まちのことを知らなかったりします。若者向けマップの他にも年代別のマップがあってもいいですね。年代が違えば、まちの楽しみ方も違うから。ぜひ皆さんに作ってもらいたいですね。

荒木 他にもインターネットのツイッターやフェイスブックを使って、最新情報を発信していきたいと思っています。

市長 そういう新しい発想も大事ですよ。高チャリだけじゃなく、まちを盛り上げていくためにも、皆さんの意見は貴重です。何かいいアイデアを思いついたら、いつでも話に来てください。本日はありがとうございました。

木部・榊澤・荒木 ありがとうございます